

ひろば北九州

Hiroba Kitakyushu 2012.10.1 No.316

10



●北九州 演劇の街は、いま
「顔」は悩ましい

大塚恵美子

●アート現場から
第21回英展より福地英臣《メタ・
レベル5》について

花田 伸一

●新・食物考⑩
ブレンド茶の今と昔

中村利至久

●今、考古学がおもしろい⑫
いにしえの人を思う

中村 修身

●北九州と城
猿喰城

●ふるさと発見! 本の旅
手紙

「研究ファイル」
地域に根付き始めた
ライフスタイルビジネス

「北九州市立美術館分館ご案内」
生誕100年 寺田政明展

「海峡の風」北九州の先人たち⑫
大正〜戦前、多彩に
活躍した芸術家

柳瀬 正夢

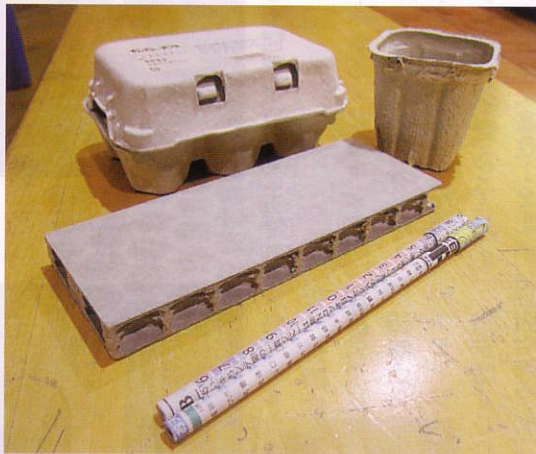
北九州 経済最前線
アジア技研(株) 溝口 純一 社長

新聞環境システム研究所

環境自慢

わがまち

古紙で作られた卵パックや
建築資材、ペパ鉛筆



地域通貨「北九州ペパ」をご存じだろうか。30ペパ集めると太陽交通（行橋市）のタクシーとバスが80円の割引になる。
このペパを発行するのがNPO法人・新聞環境システム研究所だ。「新聞を使って、環境保全の取り組みが

地域通貨を活用、古紙リサイクル活動

できないだろうか」と、川上義光理事長（63）と加来睦博理事（49）が2001年に設立した。サラリーマンだった加来さんは「利益優先、自己防衛に走る会社の体制や、紙をシユレッターにかけて焼却処分することにストレスを感じていた」という。NPO設立後、まず「資源銀行」のシステムを作った。会員に古紙を収集場所に持ってきてもらい、重さに応じて「ペパ」を発行する。1キ^ロが1ペパで、30キ^ロ貯まると30ペパ紙幣が発行される。このシステムは、福岡県内の九つの自治体で普及しており、提携先の公共交通機関で使えるほか、みやこ町では農産物直売所でも使うことができる。

ペパが普及することで①公共交通の利用者が増え、マイカーによる渋滞や環境負担を軽減できる②ゴミとして焼却される古紙を減ら

し、行政コストを軽減できる③古紙をリサイクルすることで森林伐採の抑制につながる、などの利点がある。収集した古紙を新聞製品製造メーカーや古紙問屋などに販売することで利益を得ることができ、提携先でペパが使用された金額分を充当している。

「紙って環境によくないんですよ」と加来さん。古紙を使った工業製品を1キ^ロ作るのに、100倍の水が必要とされるそうだ。そこで、「工場を通さずに自分の手でリサイクルでき



古紙を回収する加来さん（左）

ないか」と考え、「ペパ鉛筆」を思いついた。鉛筆の芯を新聞で巻いた簡単な作りだが、巻き方の研究を重ね、ようやく今の形にたどり着いた。「最初の一年は周りの反応が良くなかったけど、最近思った以上に好評で、高齢者の指のリハビリにもなります」と、学校や公民館、施設などで講演を行っている。使う図柄によって表情を変える「ペパバッグ」も好評だ。新聞製品製造メーカーと連携して、新聞紙製の苗ポットや卵パックの普及にも力を入れている。
2007年には、NPO法人・循環生活研究所（福岡市東区）、NPO法人・南畑ダム貯水する会（福岡市城南区）と一緒に「ベッタ会」を立ち上げた。これは「地べた」と「地道」をキーワードに、環境に優しい暮らしをすすめる仕組みづくりを目指す会。最近特に、家庭で雨水を上手に貯めて有効に使う活動の普及に力を入れている。
「一人でも多くの人に資源銀行の仕組み、古紙の再利用製品のことを知ってもらいたい。自分の仕事が、みんながあこがれる職業になるように誇りをもってがんばりたい」と加来さんは話している。

（中尾 真奈美）

NPO法人新聞環境システム
研究所
福岡市東区
川上義光代表 スタッフ20人
（会員1670世帯）
2001年11月発足
新聞紙リサイクルの仕組みづくり、ペパ鉛筆の講習など